

教科目名 経済学概説 (Economics)

学科名・学年 : 全学科 4 年 (教育プログラム 第 1 学年 科目)

単位数など : 選択必修 2 単位 (前期 1 コマ, 後期 1 コマ, 学習保証時間 45 時間)

担当教員 : 石井まこと

授業の概要			
経済学は人類を貧困から解放する学問として発達し, 社会の発展に多大な影響力をもっている. 一方で, 経済発展のなかで新たな格差や貧困も起きている. こうした経済社会問題の根底にある現代の資本主義システムについて, 可能な限り平易にその仕組み等を解説していく.			
達成目標と評価方法		大分高専目標(A1), JABEE 目標(a)	
(1) マスメディアで話題になる経済問題を資本主義システムの問題として分析できる.(定期試験)			
(2) 経済問題解決のために使用されている経済学の諸理論を理解できる.(定期試験)			
(3) 経済学の諸理論について, その長所と短所を理解できる.(定期試験)			
(4) 資本主義の仕組みが歴史的に発展してきたことを理解できる.(定期試験)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1 2 3 4 5 6 7	資本主義とは何か 資本主義と社会主義 経済学者の資本主義観(1) 経済学者の資本主義観(2) 私有財産制と商品生産 貨幣の成立・機能 労働・雇用と企業	資本の運動と経済活動が連動していることを理解できる. 資本主義の対極にある社会主義経済と比較して, その特徴を理解できる. スミス, マルクス, ケインズ等の著名な経済学者の資本主義観を理解できる. 資本主義の基本要素について理解できる.	【理解の度合い】
8	前期中間試験		【試験の点数】 点
9 10 11 12 13 14	前期中間試験の解答と解説 銀行と株式会社 土地所有・階級・国家 再生産と価値 利潤 貨幣経済の特徴(1) 貨幣経済の特徴(2)	銀行, 株式会社の基本的な機能を理解できる. 土地所有・階級・国家の形成と経済の関係について理解できる. 資本の運動とともに価値が増加する仕組みを理解できる. 貨幣経済の特徴について理解できる.	【理解の度合い】
15	前期期末試験		【試験の点数】 点
16 17 18 19 20 21 22	前期期末試験の解答と解説 世界市場の形成 産業革命以降の資本主義 19 世紀経済システム 20 世紀経済システム(1) 生産体制 20 世紀経済システム(2) 金融 20 世紀経済システム(3) 福祉 20 世紀経済システム(4) 環境	資本主義経済の発展史に沿って, 経済の仕組みを理解できる. 19 世紀の経済と 20 世紀以降の経済社会の違いを理解できる. 今日の雇用・福祉・環境問題の原因・対策について大局的に理解できる.	【理解の度合い】
23	後期中間試験		【試験の点数】 点
24 25 26 27 28 29	後期中間試験の解答と解説 資本主義の多様性 日・独・米の差異(1) 生産体制 日・独・米の差異(2) 労使関係 日・独・米の差異(3) 福祉制度 経済的優位の資本主義モデル 発展途上国の資本主義	資本主義システムが国によって異なっている事を理解できる. 日本・ドイツ・米国の 3 国を例にして, 高度に発達した資本主義の多様性について理解できる. 発展途上国の資本主義発展について理解できる.	【理解の度合い】
30	後期期末試験		【試験の点数】 点
30	後期期末試験の解答と解説		【試験の点数】 点
履修上の注意	教科書は毎回必ず持ってきてください。		【総合達成度】
教科書	八木紀一郎・宇仁宏幸著, 『図解雑学 資本主義のしくみ』, ナツメ社.		
参考図書	必要に応じて, 講義中に紹介する.		
関連科目	現代社会(1年), 政治・経済(1年).		
総合評価	4 回の試験で評価する. 総合評価(4 回の定期試験の平均点)を行う. 総合評価が 60 点以上を合格とする.		【総合評価】 点

教科目名 法学概説 (Law)

学科名・学年 : 全学科 4 年 (教育プログラム 第 1 学年 科目)

単位数など : 選択必修 2 単位 (前期 1 コマ, 後期 1 コマ, 学習保証時間 45 時間)

担当教員 : 山崎栄一

授業の概要			
「社会あるところに法あり」という諺があるように、われわれの生活は、常に何らかの形で法による規律を受けている。したがって、法律の知識の会得は現代社会に住んでいるわれわれにとって必要不可欠である。本講義は、法律の中でももっとも身近な存在である「民法」を中心に紹介していく。			
達成目標と評価方法		大分高专目標(A1), JABEE 目標(a)	
(1) 民法の基本的な考え方を理解することができる。(定期試験)			
(2) 日常生活の現象を法的な視点で捉えることができる。(定期試験)			
(3) 契約社会におけるサバイバル技術を身に付けることができる。(定期試験)			
(4) 各種資格試験に必要な法学の基礎知識を身に付けることができる。(定期試験)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1 2 3 4 5 6 7	法とは何か 民法とその基本原理 親族・婚姻・離婚・内縁 親子・扶養・相続・遺言 権利と義務 契約の成立と効果 まとめ	法システムのなかで民法がどのような位置を占めているかを理解できる。 民法の基本的な考え方を理解できる。 家族法の基本構造を理解できる。 権利と義務という法関係を理解できる。 契約の成立から終了までの流れを理解できる。	【理解の度合い】
8	前期中間試験		【試験の点数】 点
9 10 11 12 13 14	前期中間試験の解答と解説 制限行為能力者の保護(1) 制限行為能力者の保護(2) 意思表示の瑕疵 法人・代理・時効 悪徳商法対策 まとめ	制限能力者制度の基本的な考え方を理解できる。 意思表示の重要性を理解できる。 民法の主体としての人・法人の形態を理解できる。 悪徳商法の防止・対策方法を理解できる。	【理解の度合い】
15	前期末試験		【試験の点数】 点
16 17 18 19 20 21 22	前期末試験の解答と解説 契約の種類(1) 契約の種類(2) 事務管理・不当利得 不法行為 物権とは何か 物権変動と担保物権 まとめ	契約の具体的な内容を理解できる。 契約以外の債権・債務発生要件を理解できる。 物権の基本構造を理解できる。	【理解の度合い】
23	後期中間試験		【試験の点数】 点
24 25 26 27 28 29	後期中間試験の解答と解説 債権の消滅 契約の履行と債務不履行 危険負担・担保責任 債権の保全 裁判員制度 まとめ	契約が実現されなかった場合の対処方法を考えることができる。 債権の保全の方法を考えることができる。 裁判員制度を理解できる。	【理解の度合い】
30	後期末試験		【試験の点数】 点
30	後期末試験の解答と解説		【試験の点数】 点
履修上の注意			【総合達成度】
教科書	尾崎哲夫, 『高校生の民法』, 自由国民社。		
参考図書	必要に応じて, 講義中に紹介する。		
関連科目	現代社会(1年), 政治・経済(1年)。		
総合評価	定期試験により評価する。総合評価が 60 点以上を合格とする。		【総合評価】 点